



ICHINOMIYA

# 第7次 一宮市総合計画 概要版

平成30年度 ▶ 平成39年度  
(2018年度) (2027年度)

・都市将来像	.....	P3
・一宮市の未来ストーリー	.....	P4・5
・一宮市を取り巻く社会潮流	.....	P6
・5つのプランと2つのマネジメント	.....	P7
・基本フレーム	.....	P8
・Plan 1～5	.....	P9～13
・Management 1・2	.....	P14・15
・市民が考えた「私たちにできること」	.....	P16・17
・スペシャルインタビュー	.....	P18・19



一宮市長  
中野 正康

このたび、平成30年度(2018年度)から10年にわたる「第7次一宮市総合計画」を策定しました。総合計画は、市政運営の基本となる計画です。新しい計画が始まるということは、まちづくりを進めていく新たなスタート地点に立ったと言えます。

これからの時代において重視されるのは、一人一人の生き方が尊重され、誰もが心の豊かさを実感できる社会だと考えています。わたしたちが目指すのは、幸福を感じる時間や場所が至るところにあり、そして互いに支えあうまち。この地域で受け継がれてきた、有形無形のさまざまな財産を大切にしながら、より一層の発展を目指していきます。

この計画で定めている都市将来像「木曾の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」には、このまちの市民であることに誇りを持ち、共に手を携え、未来に向けたわたしたちのまちづくりへの決意が込められています。市民の皆さまの期待に応えられるよう、このまちの将来を見据え、この計画で掲げる具体的な施策に取り組んでまいります。

最後に、総合計画審議会委員の皆さまをはじめ、ワークショップなどご参加いただいた市民の皆さま、そして策定に関してご尽力いただいた関係各位に対し、心から御礼申し上げます。

平成30年(2018年) 3月

## ■ 都市将来像

---

本市はこれまで、先人のたゆみない努力と木曽川の豊かな自然に生まれ、経済・交通・文化など、さまざまな面で発展してきました。これからもこうした自然環境の恩恵を受けつつ、本市の特長を活かしながら尾張西部を代表する中核的な都市として、成長を遂げていかなければなりません。

木曽川に18km余りも接する、文字どおり「母なる木曽川」に抱かれた本市の姿は、特有なものであり、本市のアイデンティティーです。また、心のゆとりのある生活空間や、暮らしのひとときはかけがえがなく、21世紀を生きるわたしたちにとって不変の願いです。

したがって、第7次一宮市総合計画の都市将来像を、前計画を継承し、次のように定めます。

木曽の清流に映え、  
心ふれあう躍動都市 一宮